

曹青かわら版

平成23年6月21日
山口県曹洞宗青年会
会長 清成 良知

「平成二十三年度総会」報告

四月二十五日（月）、周南市のサンルート徳山にて平成二十三年度総会を開催いたしました。

三教区楞厳寺田中康道老師を議長に、二十二年度事業報告・会計決算ならびに監査報告、会則変更と役員改選、二十三年度事業計画・会計予算等について議事をを行い全会一致で承認されました。会則変更は、細則第一条にある正会員の年会費二千円を五千円に改正する内容で、この変更により月例研修など事業活動の一層の充実を図ります。

また、今年度は任期満了に伴う役員改選がなされ、新会長は清成良知（八教区福昌寺）、副会長は池田亮一（四教区常安寺）、新たに栗屋孝順（十一教区常福寺）が選出され、今年度の新体制がスタートしました。

なお、総会後に初老を迎えた会員

五名の祝賀会が行われました。本年度初老を迎えた方は次の方々です。

先ずは、三月十一日に発生致しました東日本大震災で被災された方々にはお見舞い申し上げますと共に、お亡くなりに成られた方々、未だ行方不明となられている方々には心よりご冥福をお祈り申し上げます。

県青年会としましても、山口県曹洞宗災害支援現地活動部に全面的に協力をさせて頂き、被災された方々の心に寄り添いながら出来うる限りの支援を継続して参ります。詳細につきましては報告文をご覧頂ければと存じますが、特に、被災地での活動を通して結ばれる心の絆はお互いに復興への大きな励み、力になると共に今後の自身の心の中においても大きな糧になると信じております。青年会員の皆様には積極的に現地に支援に行って頂きたいと願うと同時に、副住職、徒弟さんのおられるお寺では、方丈様の後押しを頂ければ幸いでございます。

今期は「会員の資質の向上と意識の向



大野前会長より会長専用の笏を受け継いだ新会長

就任挨拶

第八教区福昌寺副住職 清成良知

上」をテーマに活動致したく存じます。

月例研修も充実させ、お互いに研鑽し
あいながら更なる絆を深め、横の繋がり
を大切に出来る組織作りを目指しま
す。

先日、全国曹洞宗青年会の総会が東京宗務庁で開催され、全国から各曹青年会の方が集まりましたが、今回の震災での山口県の対応の早さ、活動内容共に皆一様に感心しておりました。中には山口県のまとまりがうらやましいという人もいたくらいがありました。他県と比べまして格段に横の繋がりが深い県であるとということを痛感した次第であります。これも歴代の会長さん始め、諸先輩方が作りあげて下さった基盤を引き継いでこれたからであると思つておりますし、今後も更なる基盤の強化に取り組みたいと考えております。

また継続事業としてのタイ山岳少数民族教育支援もお陰様で十六年目となりましたが、先日協力団体でありますシヤンティ山口さんから次の様なメールが届きました。

「(スタッフの一時)帰国直前にホイップム村の村長さんが事務所に駆けつけ『これまで日本人の支援のおかげで教育を受ける

ことが出来た。今こそ恩返しをする時である。』とホイップム村民の募金を持つて来られ、日本の皆さんに気持ちを伝えてほしいと言付かりました。ホイップム村は、寮生出身の村で支援活動の最中であります。現金に縁のない暮らしの中から、

気持ちとはい、大変なことです。渡されたときには、涙でいっぱいになりました。金額では無くこの気持ちを何百倍にもして被災された方々へのお手伝いをしたいと思つています。』と…

共に学び、共に助け合うという、お互に心を通わせあえて来たからこそこの村民皆さんの募金活動であったかと思います。これからも諸先輩方から受け継いできた基盤を大切に、海外からの心の支援の輪が日本復興の一助となれるよう、大切に繋いでいきたく存します。

青年会活動も多岐に渡り色々なことが経験出来る場でもあります。青年僧侶としての自覚を身につけながら会員諸師が力を蓄え發揮出来るよう誠心誠意尽くす所存でございます。とは言え非才不徳の身でございます。何卒青年会に更深く理解と協力を賜りますようお願い申し上げましてご挨拶にかえさせて

頂きます。

「東日本大震災」支援活動報告

まずもつて、この災害支援に様々な形で協力いただきました皆様に御礼申し上げます。



県曹青は、震災発生より情報収集にあたり、三月十二日に災害対策連絡用メーリングリストを立ち上げ、翌十四日から緊急托鉢(街頭募金)を行いました。十四日から十八日まで、県内八ヵ所で各方面からのご協力を頂きながら、OB会員や徒弟さんも含め延べ約八十八名が参加し、多くの義捐金を頂きました。さらに県内各御寺院様からも多くの義捐金を頂戴しました。

また、全曹

青から救援物資の依頼があり、炊き出しセットを四セットとスコップ十本、デツキブランシ

五十五本、ミ

ネラルウォーターを福島へ送付しました。

加えて後述する気仙沼市の炊き出しに必要な食材、器材の提供をしました。

義捐金をはじめ、救援物資やその資金を提供してくださった多くの皆様、ご協力ありがとうございました。

〔義捐金・支援金報告〕

県内各御寺院様をはじめ、多くの皆様のおかげで、総額2,989,147円もの義捐金・支援金をいただきました。

街頭募金	… 1,337,285円
県内寺院募金	… 1,620,362円
デッキブランカンパ	… 31,500円

頂戴しました義捐金・支援金は日本赤十字社、SVA、東北各県の曹青などに寄託します。今後も募金活動は継続しますので、ご協力よろしくお願ひ致します。

四月三日～八日に現地視察を兼ね、

宮城県気仙沼市での炊き出しに会長と南健司師、久楽宗道師が参加しました。

五月一日、県宗務所が「山口県曹洞宗

炊き出しの様子



東日本大震災
支援会議」を結成し、その「現地活動部」として

宗務所、シャンティ山口、県

梅花講、県寺族会、県婦人

会、布教研究會、県曹青等、

県内諸団体が集まり活動することになりました。五月八日（日）から十三日（金）まで、【第一班】として七名が、行茶

を中心とした支援活動を、宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市・釜石市の避難所で行つたのを皮切りに本格的な支援活動を始め、現地活動部、曹青会員も含めた有志の参加者により現在も継続中です。

【第二班】五月十五～二十日（参加者七名）
【第三班】五月二十二～二十七日（六名）

【第四班】五月二十九日～六月三日（四名）
※台風のため現地活動部は中止。全曹青・福島曹青の炊き出し協力（福島県郡山市）、宮城県若林区東禪院のお手伝い。

【第五班】六月五～十日（六名）

【第六班】六月十二～十七日（六名）
【第七班】六月十九～二十四日（五名）

〔現地活動報告〕

毎週日曜の夕方、マイクロバスで法明院様を出発し、翌月曜の午後1500km二十数時間かけ岩手県に入ります。毎週火、水、木曜日と活動をして木曜日の活動後帰路に向かうと、いう行程を五月八日より六月三十日まで毎週継続しております。また七月以降に關しても随時五～六名を派遣出来るよう調整しています。また七月以降に關しても随時現地に行くことが出来るよう協議しています。

現地での活動内容は、岩手県奥州市に宿（翠明荘）を借り、そこから車で約二時間の釜石市を中心に行茶活動を行います。

行茶というのは傾聴ボランティアのひとつで、お茶を飲んで被災された方がほつとする時間を持つるように、またお話しをすることによってストレスを少しでも軽減してもらうのと同時に、普段の会話の中からアンケート調査では得られないニーズ（要望）を把握し行政に繋げるという役割も担っています。

お茶を飲むという普段何気ないことで

ですが、先日会員が伺った避難所では急須で緑茶を飲んだのは震災後初めてという方も多数おられたようです。ペットボトルのお茶等は行き届いていますが、なかなか急須、湯飲みやティーカップを使つてゆっくりと飲む余裕がなかつたというのが現状の様です。

現在の活動の中心である釜石市は、避難所から一步進み仮設住宅への入居が始まりました。仮設住宅へは繋がりのあった地域の方がまとまって入れる訳ではなく、全く繋がりのない方が抽選により入居されるそうです。また、仮設入居者は地域の自治会にも入れず、民政委員も立ち寄らないと言う、いわば孤立した区域に陥りそうな状態であります。阪神大震災の時にも仮設に入居が始まつてから孤独感を感じられる方が増え、自死問題へと発展しました。

こういった現状をふまえ、吉川宗務所長老師始め、現地活動部本部長の藤田副所長老師、副本部長のシャンティ山口角代表のご助言ご提言を頂きながら現在の移動喫茶での行茶活動を展開しています。

オープンカフェという形式で被災された方が入りやすい雰囲気を作り、集まつた

方との交流で心の繋がりを結びながらストレスの軽減を図ることをまずは目標とし、さらに集まつた方や入居者同士に、交流の場として活用して頂き、横の繋がりを感じて頂きながら新しい地域社会の形成に役立てて頂くことを最終的な目標に掲げ、その中で居住者のニーズも拾つていき行政に提言していく方針を考えています。

被災された方々にとつてこの行茶活動は、これまでゆっくりと人と話ながら



被災地のニーズは時々刻々と変わつて参ります。柔軟な対応が要求されます。が、組織の枠を越え横と横の繋がりを大切に山口県として被災地復興支援に携わつて行くことが出来ればと思います。今後とも色々な形でお願いをすることがあるかと思いますが、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「震災ボランティアに参加して」

一教区広沢寺徒弟　土田裕明

五月二十二日より二十七日まで被災地でのボランティア活動に参加させて頂きました。

私は四月末まで永平寺に安居していました。被災地の状況をほとんど知らないまま

現地に向かいました。現地では主にお茶を出したり片付けたり

お茶を飲む機会がなかつた、入居者同士で顔を合わせる機会が出来た、ということで大変喜ばれているようです。またボランティアセンター本部の方にも、被災された方の心のケアの部分とニーズ調査の役割をうまく果たしていると言ふことで非常に評価していただいているようです。

しており、私が実際に被災者の方々とお話をすることは少なかつたのですが、出された御茶碗を大事そうに抱える姿を見るだけ

で、このボランティアの大切さを感じました。この活動の意義を再認識できたと思いま



また、今

回は岩手の

曹青の方々

にも手伝っ

ていただき

ましたが、そ

の際に空い

た時間に被

災地を案内

してもらい

ました。被

害は想像以上のもので、このような状況の中で自分には何が出来るだろうかと深く考えさせられました。

今回修行を終えてすぐにこのような機会を頂いて、震災を肌で感じ学ぶことが出来ました。これからも自己満足で終わらないよう、自分の出来るることをやっていけたらと思います。

「被災地で感じたこと」

一教区多聞寺徒弟 佐々木大觀

この度、五月十五日から五月二十日の間、東日本大震災の支援活動に参加させて頂きました。支援活動の実際の活動としては、傾聴ボランティアの一つとして行茶活動をさせて頂きました。

テレビでは被災地の様子を報道しない日はないというくらい、その映像を見てはいましたが、実際に現場に足を運んでみると想像以上の被害に言葉を失いました。

その光景を見た後で被災者の方とお話がしつかり出来るかとても不安でした。しかし、行茶活動の初日では「お坊さんが来てくれるだけで場の空気が和んで、ホッとする。」と言つて頂きました、「お坊さんがいると、色々な話が出来ます。」とも言って頂きました。少しでも、元気を届けたいと思っていましたが、逆にそういった温かい言葉でこちらが元気を頂きました。

まだ経験の少ない自分が宗侶としてどのように思つてもらえる事は、やはり今までに先輩方がそういう活動を一生懸命に取り組んでおられ、またその結果がその場を温かい空間に出来たのだと思いました。

活動としては皆さん笑顔になつておられ、満足されておられたと思います。お抹茶や

せんざいなどをゆづくり頂くという事が震災以後なかつたようなので、本当に心の余裕やゆとりをもつ場になれたと思います。また、山口から来たことを話すと「山口に帰った時に色んな人に伝えて欲しい。」と言われました。現地に足を運んで支援をしたいと言う方も、実際には生活が忙しく都合がつかないという方が多いと聞きます。そういう方々に自分の体験を語る事も支援活動の一

つであると思いました。

「全曹青評議員会・総会」報告

全曹青評議員 磯部誠司

去る五月十八日に全曹青定期評議員会、十九日に定期総会が開かれ、山口曹青から清成会長と私が出席しました。

第十八期全曹青の任期満了にあたり、二年間会長をつとめられた久間泰弘師（福島）が退任され、第十九期全曹青の会長として、松岡広也師（静岡第一）が就任されました。また、中国管区から、板倉省吾師（いずも）が副会長に就任されました。久間泰弘師は、二年間の活動の中で、「いのちの声に耳を澄ます」をスロー



ガンに掲げ、
その活動の基
幹である「電
話相談員養
成研修」を全
国で開催し、
多くの参加
者を得まし
た。山口曹青
からも、福岡
で開催され

た際には多数参加し研修を受けました。
そして「観世ふおん」という実際の電話相
談窓口を開設し、研修会修了者とともに
に現在も運営しています。

新会長松岡広也師は、「今が明日への
新たな一步」をスローガンに掲げ、この度
の大震災の支援活動について、全国の曹
青会が円滑に支援活動に臨めるような
体制の構築に取り組み、被災地の各曹
青会と密接に連携して被災地の状況に
応じた長期的な展望に立った支援を行
することを表されました。また前期開
設した電話相談窓口「観世ふおん」を継
続して事業を展開されるようです。

なお、この度全曹青会則の改正があり

去る五月十三日から十五日の三日間

「歩き遍路の旅」参加研修報告

九教区梅岳寺徒弟 末武正憲

最後に、被災地での行茶活動、電話相
談窓口「観世ふおん」の活動、各曹青での
活動において、これからますます「傾聴」
の心が大切になつていくのではないかと二
日間の会議を通じて感じました。

一日目を終えて、若干足に違和感を覚
える程度でした。ですが次の日、「正直筋
肉痛がやばい。これで二十数キロ歩ける
のか」といった具合でした。しかし、道中、
足は痛いのに妙に気分が高揚して痛みを
感じなかつた時がありました。ランナーズ
ハイのウォーキング版とでも申しましよう



81番白峰寺へ向かう途中の難所
(600段の階段)

の日程で、下関市高林寺様主催の歩き
遍路の旅（香川県編）に参加させて頂きました。詳しい内容は山口県曹洞宗青年
会のホームページをご覧下さい。

参加者は高林寺様の檀信徒の方々を
中心に二十余名でした。バスで四国へ向か
う道中までは内心、「歳が倍近い人に遅
れをとることはないだろう」と高を括つて
おりました。ですが、希望は脆くも潰え
ることになりました。

また、今まで年会費を千円とし、団体
に加盟している場合は、一会员あたり五
百円だったのを、団体加盟の有無にかか
わらず年会費千円となりました。この事
案は賛成多数で可決されたものの、一部
の団体から反対があったので、会長はじめ
執行部が、今まで以上の説明、説得を
されて、すべての団体の賛成を得てから
実際に施行されたとのことです。

40歳以下に改正されました。

該年度内は正会員とするに、全曹青会
長候補者、執行部の年齢が、今までの就
任年度四月一日に満三十九歳以下から
四十歳以下に改正されました。

また、今まで年会費を千円とし、団体
に加盟している場合は、一会员あたり五
百円だったのを、団体加盟の有無にかか
わらず年会費千円となりました。この事
案は賛成多数で可決されたものの、一部
の団体から反対があったので、会長はじめ
執行部が、今まで以上の説明、説得を
されて、すべての団体の賛成を得てから
実際に施行されたとのことです。

最後に、被災地での行茶活動、電話相
談窓口「観世ふおん」の活動、各曹青での
活動において、これからますます「傾聴」
の心が大切になつていくのではないかと二
日間の会議を通じて感じました。

か。その結果、なんとか歩けました。

三日目も相変わらず足は痛いのですが、前日と比べて距離が短いというのが何より気分を楽にさせてくれました。

なんとか二日目も歩けましたが、この三日間を通じて痛感したのは、自らお遍路に参加するような人は体力が違うと。普段から鍛錬している人には敵わないとうことです。これを機に、少しは鍛錬しようと思つたり、思わなかつたりしました。

講義頂きました。

講義では、まず大覚寺様で実際に行っている大般若祈禱の差定・進退などについて紹介していただき、その後行持規範（九十二頁）の転読大般若における住持進退について、杉本俊龍老師（宗門室内学の泰斗）の作法も参考しながら、丁寧にご教授いただきました。

お師匠様の門風を大切にしながら、ご自身でも研鑽を積まれて来られたお話に、参加した会員は持参した理趣分を片手に熱心に聞き入っていました。

月例研修報告

六月十四日(火)、午前十時より正午

まで、山口市禅昌寺様を会場

に、月例研修を開催しました。今回の研修では、第九教区大覚寺ご住職、末益泰輝老師を講師にお迎えし、「大般若理趣分転読作法について」ご

七月一日(土)、午前十時より午後四時頃まで、山口市仁保の源久寺様を会場に、恒例の緑蔭禪のつどいを開催します。内容は坐禅、法話、読経、ラフターヨガ(笑いヨガ)、精進料理などです。法話講師は防府市安養寺住職、渡辺勝人老師、ラフターヨガ講師は寺庭婦人セミナーにもお越し頂いた平山英子先生です。



「緑蔭禪のつどい」のご案内

七月二日(土)、午前十時より午後四時頃まで、山口市仁保の源久寺様を会場に、恒例の緑蔭禪のつどいを開催します。内容は坐禅、法話、読経、ラフターヨガ(笑いヨガ)、精進料理などです。

（緑蔭禪事務局一教区大林寺矢野善隆）

「徒弟研修」のご案内

八月二十五日(木)から二十七日(土)の二泊三日、県宗務所との共催で、本年度の徒弟研修は横浜大林寺様にて行います。研修後は、大本山總持寺参拝、そしてふだんは見られない羽田空港の整備工場内の格納庫で間近に飛行機を見学できます。



二日目の宿泊は、東京湾を行き交う船の見えるホテルに泊まります。

今年も多数のご参加を



昨年の徒弟研修（長門市青海島にて）

よみがえったもので、一九八四年境内下の休耕田に植えられ、花の咲く七月頃には多くの人で賑わいます。

どうぞ、多く

の檀信徒様に

ご案内していただきますようお願い致します。

お待ちしております。

(事務局十二教区光雲寺河村史紀)

● タイ山岳民族教育支援募金 クラフト販売状況 ●



【クラフト連絡先】
(担当) 欣慶寺 野坂正道
電話 090-7592-6296

三月六日	四教区心の大学	クラフト 106,000円
募金		19,779円
三月十八日	福昌寺	クラフト 24,700円
募金		26,110円
五月二十日	県寺族会	クラフト 22,280円
募金		3,710円

今後ともご協力よろしくお願いします。

クラフトは「寺院様の諸行事にぜひご利用ください。」一報くだされば、会員が販売に参ります。また贈答品などにもご利用いただけます。

● シヤンティ寮土地購入について ●

以前皆様にお願いいたしました、シヤンティ寮の農作地購入の募金ですが、当初の目標を大きく上回る58口、合計737,792円もの援助金をいただきました。シヤンティ山口様を通じ土地購入代金を現地へ送金させていただきまます。尚、余剰金はタイ山岳少数民族教育支援に充てさせていただきますことをご了承願います。多くの方々のご協力を賜り誠にありがとうございました。

執行部刷新を機に、ホームページをリニューアルしました。これまでの写真に加えて、動画を交えて活動の様子を紹介して参ります。

アドレス(<http://yamaguchi-sousei.org>)

寺院紹介の項目は掲載許可を頂ければ速やかに紹介致します。ご連絡下さい。

(HP担当 九教区梅岳寺 末武正憲)

編集後記 かわら版と白雲片片(担当

十三教区観音寺 沖墨公慈)が、ついにホームページ内でも読めるようになります。引き続きよろしくお願ひ致します。

(一教区観音寺 森江裕孝)

（二教区観音寺 森江裕孝）

・心の大学講座
十一月二十二日(火) 一教区 禅昌寺

ホームページをリニューアルしました

【今後の行事予定】

- ・中国管区連絡協議会・慰靈法要・講習会
- 六月二十七日(月) 広島市

・緑蔭禅のつどい

- 七月二日(土) 一教区 源久寺

・徒弟研修

- 八月二十五日(木)～二十七日(土)總持寺他

・戒弟の集い

- 十月七日(金) 一教区 禅昌寺

【お問い合わせ先】

山口県曹洞宗青年会事務局
熊毛郡平生町佐賀一七一四
龍護寺(四教区)清木賢明
電話 081-101-5810五四九
FAX 081-101-5810五五九